

令和 7(2025)年度 法学類演習シラバス(掲示用)

| | | |
|---|--|--------------|
| 授業科目名: 法理学演習 | 担当教員名[ローマ字表記]: 足立 英彦 [ADACHI Hidehiko] | |
| 曜日・時限: | 対象学年: 3・4年 | 募集人数: 12名 |
| 授業の主題・目標: 法理的「いきなり実践アプローチ」 | | |
| <p>授業内容:</p> <p>「ワクチン接種を義務化すべきか」「カジノを推進すべきか」「男性の育児休業を義務化すべきか」「男女別トイレは廃止すべきか」「フェイク・ニュースを規制すべきか」、これらの間にたいして、どれだけ一生懸命に六法を読んでも、答えを見つけることはできないでしょう。このような、簡単には答えられない問と取り組むのが法理学(法哲学ともいいます)です。どのような時代にも、常に新しい課題があります。それらに対して、理由付けをせずに直感で答えを出したり、他人の答えに追随するのではなく、できるだけ多くの人の共感を得られるような、できるだけ「正しい」答えを見つけたい人に、法理学は何らかのヒントを提供できるはずで。</p> <p>上記の諸問題は、瀧川裕英編『もっと問いかける法哲学』という本で取り上げられている問の例です。この本は「いきなり実践アプローチ」を方針としており、自由、平等、法と秩序という3つの大きなテーマに区分された15の具体的な問題に取り組んでいます。2025年度の法理学ゼミでは、まずこの本と一緒に読み、議論をしながら、問に対する法理的な取り組み方に慣れていただきます。その後、各自興味のある課題を選び、考察を進め、年度末にレポートまたは卒業論文という形で見解をまとめていただきます。論文作成に抵抗感のある方もいると思いますが、課題の設定、先行研究の調査と読解、そして学んだことをまとめるという作業を徐々に進めれば、かならず完成させることができます。要所要所のできるだけの支援をしますので、チャレンジしてみませんか？</p> <p>すべての法学類生の履修を歓迎します。なお、当ゼミでは卒論(6単位)を書いていただきますので、とくに総合法学コースの方には、選択必修枠も埋められて一石二鳥ではないかと思えます。</p> | | |
| 教科書・教材: 瀧川裕英編『もっと問いかける法哲学』(法律文化社、2024年) | 参考書: | |
| 関連科目:法理学・憲法・法思想史 | 評価の方法:出席とゼミへの貢献度(報告と発言)、レポート(ゼミ1年目の方のみ)を基に評価します。 | |
| 履修上の注意事項や学習上の助言: 1年目の最後にレポートを、2年目の最後に卒業論文を提出していただきます。過去の卒業論文は私のWeb(https://law-kanazawa.info/theses/)に掲載しています。 | | |
| 学生からの演習に関する質問への対応方法: 1 随時可能 2 オフィスアワー(曜日:火曜日 時間:12:00~13:00) 3 E-mail(hadachi@staff.kanazawa-u.ac.jp) 4 電話(076-264-5383) 5 その他() | | |
| 受講者数調整方法: (ただし、定員を超えた場合は全員志望理由書を提出する必要があります) 定員を超えた場合は、志望理由書に基づき選考します。 | | |